



「学ぶ土台づくり」便り



宮城県では、ルルブル同様、社会総がかりで次世代を育てる幼児教育を展開するため、「学ぶ土台づくり」を進めています。今後、ルルブル通信を通して「学ぶ土台づくり」に関する情報についてもお伝えしていきます。

宮城県では、幼児期を生涯にわたる人間形成の基礎を築く時期、すなわち「学ぶ土台づくり」の時期ととらえ、平成23年3月に「学ぶ土台づくり」推進計画を策定し、県、市町村、教育・保育各関係機関等において計画に基づく各種事業や取組を実施してきました。

平成27年3月には、現在の第2期「学ぶ土台づくり」推進計画が策定され、引き続き**幼児教育の充実**に向けた様々な取組を行っています。



第2期「学ぶ土台づくり」推進計画 概要版

ご存じですか？「学ぶ土台づくり」

県では、幼児教育に関するアンケートを実施し、幼児教育関係者や保護者の皆様から回答をいただいておりますが、残念ながら「学ぶ土台づくり」という言葉はあまり知られていません。

「学ぶ土台づくり」とは、幼児期を将来の自立のために必要となる**社会性**、**コミュニケーション能力**、**想像力**など様々な能力や態度の基礎を築く時期（生涯にわたる人間形成の基礎を築く時期）と捉え、**この時期の子どもの成長を促す幼児教育を表すもの**です。



Q & A 内容は？

第2期「学ぶ土台づくり」推進計画では、目指す子どもの姿を「**元気いっぱい 夢いっぱい 瞳かがやく “みやぎっ子”**」～遊びや自然・人とのかかわりを通して、豊かな心をはぐくむ～とし、4つの目標を設定して、目指す子どもの姿の実現に向けて取り組んでいます。

- 目標1 親子間の愛着形成の促進
- 目標2 基本的な生活習慣の確立
- 目標3 豊かな体験活動による学びの促進
- 目標4 幼児教育の充実のための環境づくり



今回は、目標1について詳しくご紹介します。

学ぶ土台づくりミニ講座 第1弾!! 親子間の愛着形成の促進について

子どもの心が健全に発達していくためには、自分の存在を認め、それと同時に、他人からも認められているという自らへの信頼感（自己肯定感）が必要です。

こうした自己肯定感は、乳幼児期において、保護者と子どもとの間で形成される愛着関係の中から獲得していくとされています。

愛着形成は、物事に積極的に関わろうとする姿勢にも大きな役割を果たします。



学ぶ土台づくり普及啓発事業 紹介

「圏域別親の学び研修会」

子育て（幼児教育）について学ぶ機会や、参加者同士が交流しながら新たな「気づき」を得る機会として、幼児を持つ親や幼児教育関係者等を対象に、7圏域毎に研修会を開催しています。

研修会では、子育て（幼児教育）に関する講演とともに、参加型学習プログラムの1つである宮城県版親の学びのプログラム「親のみちしるべ」を活用したグループワークなどを行っています。

今年度は、22回開催予定です。

詳しくは、教育企画室のホームページに掲載しています。

宮城県教育企画室

検索 🔍

幼稚園や小学校の先生方、生涯学習に携わる人などたくさん集まりました。



今年度、第1回目、気仙沼本吉公民館で行われた研修会の様子です。